

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立 那賀高等学校	歌 保晴
学校所在地		
〒 649 - 6223 和歌山県岩出市高塚115 tel 0736 (62) 2117 fax 0736 (62) 2119 e-mail		
担当者名		役職名・担当教科
長谷 忠志 / 亀岡 靖典		国際理解教育部 教諭・英語
〔学校の概要〕		
<p>和歌山県紀北地域の岩出市にある県立高校で、普通科と国際科を合わせ持つ1学年8クラスの総合学校。教育目標の一つに「国際理解教育の推進」を掲げ、普通科、国際科を問わず、国際感覚の育成と語学力の養成に努めています。オーストラリア・ヴィクトリア州にあるクリスチャン・カレッジ高校とは姉妹校提携を結んで23年を迎え、留学生を受け入れたり、本校生徒を派遣したりしています。又、平成28年度は中国・山東省の実験中学に生徒を短期派遣しています。特に、国際科は、1年生全員がアメリカ・シアトルで2週間海外研修を受けたり、「和歌山県アジア・オセアニア・高校生フォーラム」の運営に携わったりするなど国際交流に積極的に関わっています。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
3年生39名 留学生3名	外部講師等 5名 教員 2名	本校、中辺路（滝尻、近露）、本宮、熊野古道
実践研究テーマ		
国際人育成に向かう世界遺産学習		
実践教科等名	単元名	
総合英語 LHR	世界遺産体験を通じた熊野古道プレゼンテーション	
〔キーワード〕		
世界遺産学習 国際人育成 体験学習 ふるさと教育 英語運用能力 プレゼンテーション		
〔単元目標〕		
<p>国際科で3年間学んだ集大成として、12月に来校するオーストラリア短期留学生に和歌山の世界遺産である熊野古道の魅力を、英語で発表することを目標とします。「那賀高校での世界遺産学習」と「中辺路と本宮での現地研修」と「英語運用能力向上」を融合することで、和歌山の誇るべき文化遺産を実際に歩きながら体験し、再発見し、更には世界に向けて郷土和歌山の魅力について自信を持って語るができる人材育成を目指します。熊野古道がオーストラリア人にも人気がある観光スポットである現状を考慮して、今後英語を使って観光業等に携わろうとする生徒の職業観の醸成に繋がるよう指導し、教育実践を行います。更に、外国の世界遺産や文化にも興味、関心を持って、英語を使って表現できる力を養うことを目標とします。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 16 時間 （次世代育成事業・7時間 / 学習内容と体験を英語にまとめて発表する時間・9時間）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県教育庁生涯学習局	文化遺産課世界遺産班	
和歌山県世界遺産センター	世界遺産センター職員による出張授業 次世代育成事業・事前学習 2限	
和歌山県世界遺産センター	和歌山県世界遺産マスターによる案内・指導（伏拝王子～熊野本宮大社～大斎原）	
近野振興会（中辺路）	現地の語り部による案内・指導（牛馬童子口から近露王子）	
和歌山県観光交流課	高野・熊野特区通訳案内士による案内・指導	

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	10月26日（水）5、6限 LHRと総合英語 次世代育成事業の事前学習 世界遺産センターの職員さんに「世界遺産の概論」をプレゼンテーションして頂きました。 和歌山の世界遺産（DVD拝聴・約20分）	視聴覚教室にて、「ユネスコ」や「世界遺産の登録の目的と意義」や「和歌山の世界遺産」について、わかりやすいパワーポイントで説明して頂きました。DVDで、熊野と高野の世界遺産の概要を学びました。	
2	11月7日（月）現地研修 5時間 フィールドワーク ① 熊野古道館拝観と滝尻王子を見学 ② 牛馬童子口～近露王子まで歩行 ③ 伏拝王子～本宮大社、大斎原まで歩行	熊野古道館にて、中辺路と本宮の情報収集を行いました。現地の語り部さん2名に、牛馬童子口から近露王子を案内してもらい、世界遺産マスターさん2名と世界遺産センター職員さん3名に伏拝王子から大斎原まで案内と補助をして頂きました。	フィールドワーク中のデジタルカメラやメモによる情報収集。
3	11月9（水） 2限 総合英語 発表グループを5人組で8班に分け、発表内容と各生徒の役割分担を決めました。	現地研修で学んだこと、実際フィールドワークを通して感じたことや学んだことを、グループごとでまとめました。	
4	11月16日（水）5、6限 LHRと総合英語 情報教室でパワーポイントを使い、写真、動画などを取り入れ、12月に留学生に向けて行うプレゼンテーションの準備をしました。	英語のパンフレットやガイドブックを読んだり、現地で撮影した写真、動画を使用できるようにデータを各グループに渡し、資料として使えるようにしたり、発表準備を行いました。	
5	11月17日（木）4限 総合英語 11月18日（金）5限 総合英語 日本語でまとめた原稿を英語に訳し、それぞれ分担作業を進めました。	総合英語の授業を使い、グループ毎に原稿を英語に訳す際、助言を行いながら、生徒自身が作った文を活かすように指導を行いました。	
6	11月30日（水）5、6限 LHRと総合英語 作成したスライドに英語での説明をつけ、発表の準備を行いました。	英文作成の際に、補助を行いました。	
7	12月8日（木）2限 総合英語 12月14日（水）2限 総合英語 視聴覚教室で姉妹校の生徒に自作のパワーポイントを使用しプレゼンテーションを行いました。	発表が円滑にできるように補助を行いました。姉妹校の生徒、教員、那賀高校の英語科教員、国際理解教育部の職員なども出席し、約30名の聴衆の前で発表行いました。	姉妹校の生徒に、評価シートを配り、内容、発表の仕方（声の大きさ、発音、表情）点数をつけさせ、評価の一部としました。

〔単元学習の成果と課題〕

【成果】

- (1) 熊野古道の重要性と魅力を、事前学習での座学と現地研修での体験を融合して、英語で発表することができました。
- (2) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、英語で情報を集めたり、資料を読んだり、講義を受けたりして、和歌山の誇るべき世界遺産に興味や関心を持つようになり、学習内容を統合する力が促進されました。
- (3) 熊野古道を語り部さん達と実際に歩くことで、熊野地域に関する興味や関心をさらに高め、熊野の文化の奥深さや外国人にとって人気のある観光地になっている現状について考える機会を得ることができました。

【課題】

- (1) 対象学年を高校3年生に設定したため、1月以降登校日が限られ、事後学習に十分な時間をとることができませんでした。次回は、留学生だけでなく、次世代育成事業に参加できなかった他学年の国際科や普通科生徒にも、世界遺産体験を英語で発表するなどの時間を作る必要がある。
- (2) 今後、世界遺産学習をより深い学びにするために、世界遺産学習を授業の一部に取り入れ、計画立てて、他教育機関などと連携して体系的に学べるプログラムを企画、実施していく必要があると考えられます。

〔世界遺産学習の効果〕

この研究実践では、まず、世界遺産に関する専門の職員さんから「世界遺産概論」の講義を2限（1限50分）を受けたことで、ユネスコの理念、世界遺産の価値、世界遺産登録の基準と和歌山の世界遺産の背景を学び、保全に対する意識が高まり、外国の世界遺産にも関心を持てるようになりました。特に、この次世代育成事業を受けた生徒の内、那賀高校主催の中国短期研修を受けた生徒が7人は、中国の世界遺産にも目を向けることができました。その後、熊野での現地研修を通じて、生徒達が再発見した郷土和歌山の固有の魅力は、国際交流の際、コミュニケーションの話題になり、外国人に向けて和歌山や和歌山で育った自分を発信する素材として用いることができました。熊野古道を散策したり、本宮で宿泊したりする外国人観光客に実際に出会うことで、和歌山の文化と観光について考える機会も持つことができました。また今回の世界遺産学習は、毎年、那賀高生数名が参加しているスペイン・ガリシア州への青少年代表団派遣事業（ガリシア州は「熊野古道」と姉妹道関係にある「サンティアゴへの道」を有する）においても、その派遣活動の素地にもなると考えられます。今回、紀北（高野）地域の生徒が紀南（熊野）地域の世界遺産を訪ねることで、和歌山の地理的、文化的、社会的な違いや和歌山の文化の多様性を学ぶことができ、「ふるさと学習」の要素も加味されたと考えられます。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

今年度は、「国際人育成に向かう世界遺産学習」という研究テーマで次世代育成事業を活用させていただき、熊野古道を周遊し、魅力を収集し、英語で情報を発信する目標を達成できました。変わりゆく熊野地域の現状を考慮に入れると、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて以来12年経過して、平成28年に和歌山の世界遺産が追加登録されたことや熊野地域は外国人に人気のある観光地としての評価も高まり、平成28年の本宮町の外国人宿泊者数が、17,155人（国別オーストラリア・ニュージーランド2,929人、アメリカ2,198人、スペイン1,872人）で一昨年の5割増しになり、再び和歌山の世界遺産は注目されている現状があります。この社会的ニーズ、影響下で、「信仰の道」である参詣道を実際に歩くことで仏教や神道、自然崇拜といった日本古来の精神文化や熊野独自の精神性について、体感し、理解を深め、今後保全と活用の両面から「私達は何をしていくべきか」を考える契機になるように指導、手順を考え直す必要があります。今後、世界遺産学習をより生徒の将来に関わるプログラムになるように改善し、世界遺産の担い手の育成や観光推進に携わる人材育成にも繋がるよう、キャリア教育の観点から那賀高の世界遺産教育を発展させていくように取り組みたいと考えている。

様式 2

平成28年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

平成28年11月7日（月） 現地研修の様子



熊野古道館にて情報収集



牛馬童子口にて語り部さんの案内



近露にて語り部さんの指導



牛馬童子に向かう参詣道



伏拝王子から本宮までの整備された参詣道



大斎原の鳥居まで世界遺産マスターが案内

Kumano Kodo Report

留学生のレポート抜粋

An exchange student from China

It is so lucky that I had a chance to go to Kumano Path, which was chosen as the World Heritage in Tanabe city. As a foreign student, it was a special opportunity to me.

Although the weather of the day was cloudy, I was still surprised by the wonderful natural landscape. Tall trees and the path that has not been developed deeply yet were really beautiful. I deem that the beauty of nature is one of the most important reasons why Kumano Path could be chosen as the World Heritage of Japan.

At the end of this trip, we visited the Kumano Hongu Jinja. Jinja plays an important role in Japanese culture. As a foreigner we should go to the Jinja. Even if you don't do any religion ceremony, you can still get the Japanese style that is silent at least.

In the end of my essay, I really appreciate this opportunity. This trip helped not only Japanese students who are living in Wakayama but also foreigners that like me to learn from this historical path. Thank you!

An exchange student from Australia

On November 7, along with a 3rd year class and two other exchange students, I travelled by bus from Naga High School to the World Heritage Kumano Kodo in the Kii Mountains. During that day, I discovered three things about the area. They were the religious significance, the wonderful nature and scenery and also the World Heritage status of the area.

First, I want to talk about the religious significance of the Kumano region. Before I went there, I already knew some information about the area because I am doing the 4 day pilgrimage from Tanabe City to Kumano Nachi Taisha from December 7 to December 10. Even though I had some knowledge, I was still amazed by the religion of the area. The first stop at a place called Takijiri-Oji especially highlighted this. It was a very small area but I could feel the spiritual power around me. It was very relaxing being there. I had the same feeling at two other religious locations called Chikatsuyu-Oji and the large Kumano Hongu Taisha. During my time in Japan, I have visited many famous shrines. I have been to shrines such as Meiji Shrine in Tokyo, Kitaguchi Hongu Sengen Shrine at the bottom of Mt Fuji and Itsukushima Shrine in Miyajima. However when I looked at Kumano Hongu Taisha, I felt peaceful. Any worries that I had were instantly gone. I had the same feeling at our last stop for the day called Oyunohara. This is the former site of Kumano Hongu Taisha and is marked by the largest Torii gate in the world. Even though the shrine is no longer there, I still felt very relaxed and was amazed at the area.

Next, I want to talk about the scenery of the Kumano Kodo. When we drove from Tanabe City to Takijiri-Oji, the mountains were absolutely stunning. There were bright autumn leaves and the rivers were flowing with fresh mountain water. Once again, I didn't know what to say. The nature on the Kumano Kodo trail was also incredible. It was so different to the nature in Australia. Tall trees towered over us and covered us from the sun. However my favourite spot

of the day was the view from a place called Fushiogami-Oji. This is the first place where pilgrims would see their main goal, the Kumano Hongu Taisha. At this point, I didn't say anything. I just looked. I was amazed how wide the mountain range was. It was wonderful looking at the mountains under the clear blue sky. I even became annoyed when we were told we had to start walking again. When I return to Fushiogami-Oji, I will be sure to look for a longer time. Japan has Nihon Sankei, the three famous views of Japan. However I believe that the view from this spot should become the fourth.

Finally, I want to talk about the World Heritage status of the area. The Kumano Kodo became a World Heritage site in 2004. It is not hard to understand why when you think about the religious significance and nature of the area. This fact is also not hard to miss when you visit the area. There were constant points letting visitors know that this is a World Heritage site. There is a large rock at Takijiri-Oji that explains about the World Heritage status of the Kumano Kodo. There are also a large amount of flags at Kumano Hongu Taisha that have the words "World Heritage" written on it. However, I was surprised about one thing. Usually, World Heritage sites have lots of tourists. However, apart from our group, there was a small amount of people in the area. There were only four foreigners as well at the start of the Kumano Kodo at Takijiri-Oji. In my opinion, it is not hard to understand why as foreign tourists rarely travel far away from the main tourist area of Kyoto. It is good as we could enjoy the area by ourselves but I also thought it was a bit sad. There is a very beautiful World Heritage area 3 hours from Kyoto but very few tourists. I hope that in the future, more people will discover this part of Japan.

In conclusion, the Kumano Kodo trip is something that I won't forget. From the spiritual power of Kumano Hongu Taisha to that wonderful view at Fushiogami-Oji, the Kumano Kodo is a wonder of Japan. I am very happy that I was able to experience the World Heritage "Sacred Sites and Pilgrimage Routes of the Kii Mountains". It has only made me more excited for my own pilgrimage trip. I can't wait for it.